

4 分析結果の概要（詳細分析は、6「問題別の考察及び指導上の留意点」に掲載）

ここでは、令和2年度学力調査結果に見られる新入学生徒の学力の傾向を項目ごとにまとめた。

(1) 発音・文強勢（【1】発音・文強勢問題 正答率 50.1%）

全大問中で2番目に正答率が低かった。mother の下線部の発音 [ʌ] を, languages の [æ] や more の [ɔ:] と区別できていない。また、話題が切り替わるとき、新たな話題の中心となる Europe に強勢を置いて相手に伝えることができていない。

(2) 語彙力（【2】語彙問題 正答率 64.0%）

語彙問題の正答率は全大問の中で2番目に正答率が高かった。選択式問題の正答率は高く、基本的な語彙は定着している。一方で、記述式問題（both）では、つづりの誤りよりも、別の語を解答する誤答や無答が多く、文脈を読み取り、正しい語を答えることができていない。

(3) 文法の知識（【3】文法・語法問題 正答率 69.4% 【4】文法・表現問題 正答率 55.6%）

ア 【3】文法・語法問題は、全大問の中で最も正答率が高かった。特に、関係代名詞 who の用法や make + （代）名詞 + 形容詞の用法はよく定着している。

イ 【4】文法・表現問題においては、時間を表す接続詞 before を対話の流れに応じて適切に用いることができていない。一方で、現在完了の用法（継続）はよく理解されている。

(4) 口語表現（【5】口語表現問題 正答率 61.5%）

会話のおおまかな展開を理解することはできている。一方で、やり取りの流れから判断して発言の意図を正確に理解することができていない。

(5) 表現力（【6】整序・作文問題 正答率 42.9%）

全大問中で最も正答率が低かった。現在分詞の後置修飾を用いた表現や現在完了形を用いて経験を尋ねる表現を正しく用いることができていない。

(6) 読解力（【7】長文読解問題 正答率 56.3%）

登場人物の発言や状況などから登場人物の気持ちを理解したり、場面の展開を正確に捉えながら内容を理解したりすることができていない。

(7) 聞き取りの力（【8】聞き取り問題 正答率 55.0%）

会話内で明示的に述べられていない内容を、与えられた情報から整理して理解できていない。